

(第1回変更)

農 村 地 域 防 災 減 災 事 業

土 地 改 良 事 業 変 更 計 画 書

あ いや が わ

鮎 屋 川 地 区

兵 庫 県

目 次

第1章 目的		2. 事業別面積	14
1. 必要性	1	第2節 営農計画及び土地利用計画(該当なし)	14
2. 緊急性	1	第3節 用水計画	
第2章 地域及び地積		1. 計画基準年	15
第1節 地域	1	2. 計画かんがい方式	15
第2節 地積	1	3. 計画用水系統	15
第3章 現況		4. 計画用水量	15
第1節 気象及び海象		5. 水源計画	15
1. 一般気象	2	第4節 排水計画(該当なし)	17
2. 特殊気象	2	第5節 道路計画(該当なし)	
3. 海象(該当なし)	3	第6節 農用地造成計画(該当なし)	
第2節 土地状況		第7節 洪水調節計画(該当なし)	
1. 地形、土壌及び浸食の程度	3	第8節 干拓計画(該当なし)	
2. 土地分類	3	第9節 農用地整備計画(該当なし)	
3. 土地利用の状況	4	第10節 老朽ため池改修計画(該当なし)	
4. 土地所有の状況	4	第5章 主要工事計画	
第3節 水利状況		第1節 用水施設	18
1. 用水状況	5	1. 貯水池(該当なし)	18
2. 排水状況	6	2. 頭首工(該当なし)	18
3. 河川状況	6	3. 揚水機(該当なし)	18
第4節 道路現況(該当なし)	6	4. 用水路	18
第5節 地域農業の概況		5. その他かんがい施設(該当なし)	18
1. 産業別就業人口	7	第2節 排水施設(該当なし)	19
2. 経営耕地広狭別農業経営体数	7	第3節 道路及び索道(該当なし)	
3. 主要家畜頭数	8	第4節 農用地造成(該当なし)	
4. 主要作物作付状況	9	第5節 洪水調節施設(該当なし)	
5. 農業の動向	10	第6節 干拓施設(該当なし)	
第6節 地域環境の概況	12	第7節 農用地整備施設(該当なし)	
第4章 一般計画		第8節 老朽ため池改修施設(該当なし)	
第1節 事業計画の要旨		第6章 附帯工事計画(該当なし)	19
1. 要旨	13	第7章 工事の着手及び完了の予定時期	19
		第8章 環境との調和への配慮	20

第9章 換地計画の概要(該当なし)	20
第10章 事業費の総額及び内訳	21
第11章 効用	21
第12章 関連する事業(該当なし)	21
第13章 現況・計画図面	21
位置図	22
計画概要図	24
中央幹線水路	25
西幹線水路	33

第1章 目的

1. 必要性

本事業対象である用水路「鮎屋川地区」は上流に位置する鮎屋川ダムを水源として洲本市鮎屋他、南あわじ市中条中筋他の農地461.1haをかんがいし、本地区の農業経営上重要な位置を占め、欠くことのできない用水路であり、築造以来地区住民の生活を潤している。

一方、本水路の一部(管渠)は石綿管が使用されており、平成17年7月に施行された「石綿障害予防規則」(平成17年厚生労働省令第21号)により石綿に起因する影響を未然に防止するため、石綿管を撤去して他の管に更新すると共に、これらと一体となって機能を発揮している他の施設(開水路)についても必要な区間を更新・補修し、これにより農業経営の安定及び農業の持続的発展を図る必要がある。

今回、中央幹線水路開拓専用水路を新たに追加する。

2. 緊急性

本水路(開水路、管渠)は、これまで施設の大規模な機能低下等を含め特に大きな問題の発生は無かったが、管渠の一部の管種が石綿管であることから、万が一、管の亀裂等が生じた場合は、健康面への悪影響は避けられず、早急な対策(管の更新)が必要である。

また、開水路部分においても、老朽化による目地の劣化、側壁及び底板部の摩耗が進行しており、さらに、経過年数が標準耐用年数(現場打：40年、二次製品：30年)を大きく越えた状態となっており、今後の劣化及び摩耗の進行を踏まえると早急な対策(更新・補修)が必要である。

今回、中央幹線水路開拓専用水路を新たに追加する。

第2章 地域及び地積

第1節 地域

(第1表)

事業名	地域
農村地域防災減災事業	洲本市字原、大野、金屋、前平、木戸、納、鮎屋、桑間 南あわじ市広田広田、広田中筋、中条中筋、中条徳原、中条広田、山添

第2節 地積

(令和6年3月現在)

(第2表)

事業名	現況地目	田	畑	原野	山林	その他	計	備考
	市町村名	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
防 農 村 地 域 減 災 事 業	洲本市	237.8	29.7				267.5	中央幹線水路235.4ha, 西幹線水路32.1ha
	南あわじ市	190.5	3.1				193.6	西幹線水路193.6ha
	計	428.3	32.8				461.1	

※樹園地26.5haは畑に含む。

第3章 現況

第1節 気象及び海象

1 一般気象

(第3表-1)

観測所名	洲本測候所	かんがい期	非かんがい期	計または平均	備	考
観測期間	1981年～2014年	6月～9月	10月～5月			
平均気温 (°C)		24.2	11.1	15.5		
降水量	平均(mm)	632.9	773.8	1,406.7		
	基準年(mm)	800.0	834.5	1,634.5		
降水日数	平均(日)	41	73	114		
	基準年(日)	41	62	103		
根雪期間	該当なし					
無霜期間	6月1日～11月30日 183日間					
最多風向	南東	最大風速 (風向)	最大：42.3 m/s (北北西)	最多風向発生時期：7月～9月 最大風速発生時期：1959.9.26		

2 特殊気象

(第3表-2)

観測所名	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位			備考
	洲本測候所	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	
観測期間	1920年～2014年															
最大日雨量 (mm)	323.0	2011.9.20		309.0	2004.10.20		269.0	2011.9.3		259.0	1965.9.16		257.0	2004.8.17		
最大時間雨量 (mm)	95.2	1965.9.16		85.0	1979.9.30		83.0	2004.8.17		82.0	1970.8.18		79.0	1920.8.27		
最大4時間雨量 (mm)	195.0	2004.10.20		113.5	1965.9.16		105.5	1935.7.25		104.7	1960.8.29		103.9	1966.9.18		
最大連続雨量 (mm)	552.9	1960.6		511.8	1965.9		473.3	1965.10		386.1	1954.6		381.2	1928.7		
最大連続干天日数 (日)	55	1945.7		39	1965.7		38	1939.8		33	1942.7		30	1953.7		

3. 海象

該当なし

第2節 土地状況

1. 地形、土壌及び浸食の程度

(第4表-1-1)

事業名	項 目	田						畑・その他							受益地標高(m)		備 考		
		傾 斜 区 分	1/1000 以下	1/1000 ~ 1/100	1/100 ~ 1/20	1/20 ~ 1/11.5	1/11.5 以上	計	3° 以下	3° ~ 8°	8° ~15°			15° ~ 20°	20° 以上	計		最 高	最 低
											8~ 10°	10~ 15°	8~ 15°						
農村地域防 災減災事業	面積(ha)	-	-	428.3	-	-	428.3	6.3	26.5						32.8	92.0	11.0		
	比率(%)	-	-	100.0	-	-	100.0	19.2	80.8	-	-		-	-	100.0				

2. 土地分類

1) 地形

淡路島の地形は北東-南西方向に直線的に延びる脊梁山地と東北東-西南西方向に延びる論鶴羽山地によって骨組みができており、山地周辺に発達する丘陵・台地・低地によって細かな肉付けがされている。

四国北東部の中央構造線の北側に沿った讃岐山脈は、東北東方向-西南西方向へ真っ直ぐに延びているが、淡路島では二つの方向に分かれる。一つは中央構造線に沿う論鶴羽山地の方向で、紀淡海峡を渡って一直線に紀伊半島の和泉山脈へと連続している。他の一つは、これより約30°北に角度を変えた淡路島の脊梁山地の方向で、明石海峡を越えて六甲山地、さらには大阪平野北縁の北摂山地へと連なっている。このような二つの方向を持つ地形的配列は、第四紀の地殻変動に伴う活断層が片側または両側に派生して形成されたものと考えられる。

本調査地の鮎屋川地区は標高 250m 以下の丘陵地に分類され、丘陵の中でもやや小高い部分が花崗岩類よりなり、それ以外は大阪層群で構成されている。

2) 地質

淡路島を構成する地盤は、白亜紀に形成された花崗岩類が基盤となし、花崗岩類南縁に泉南流紋岩類が小範囲に分布している。これらの分布域の南側に位置する論鶴羽山地には、白亜紀末期の和泉層群が花崗岩類、泉南流紋岩類を不整合に覆っている。更に、淡路島北東部地方では、第三紀中新世の神戸層群が基盤岩を被覆している。

本地域を構成する地質は基盤層として、洲本市市街以北の方向の高い丘陵地では花崗岩類、洲本市市街以南の論鶴羽山地では和泉層群の分布がみられる。また、被覆層として標高の低い丘陵地では大阪層群および段丘堆積物、谷部では沖積層が分布している。

3. 土地利用の状況

(令和6年3月現在) (第4表-3)

事業名	土地利用別 市町村名	耕地							山林		採草 放牧地 (ha)	原野 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備考
		水田		普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	茶園 (ha)	その他の 樹園地 (ha)	用材林 (ha)	薪炭林 (ha)					
		1毛作 (ha)	2毛作 以上 (ha)												
農村地域防 災減災事業	洲本市		237.8	3.2		26.5							267.5		
	南あわじ市		190.5	3.1									193.6		
	計		428.3	6.3		26.5							461.1		

4. 土地所有の状況

(令和6年3月現在) (第4表-4)

事業名	所有別	個人有			計	備考
	区分					
農村地域防 災減災事業	面積 (ha)	461.1			461.1	
	受益者数 (人)	1,164			1,164	
	筆数 (筆)	8,927			8,927	
	権利関係	所有権			所有権	
	備考(関係戸数)	1,164			1,164	

第3節 水利状況

1. 用水状況

(1) 用水系統

本地区の用水は鮎屋川ダムを水源として、各幹線用水路を経て各受益地へ供給されている。



(2) 用水施設

(ア) 取水方法一覧表

(第5表-1)

事業名	項目 施設名	かんがいの面積						計		水利権		慣行水利権		延べ取水量 m ³ /s	備考
		500ha以上		500ha~100ha		100ha以下		ヶ所	ha	ヶ所	m ³ /s	ヶ所	m ³ /s		
		ヶ所	ha	ヶ所	ha	ヶ所	ha								
農村地域 防災減災事業	貯水池			1	461.1			1	461.1					0.716	
	井堰														
	自然取入口														
	揚水機														
	その他														
	計			1	461.1			1	461.1					0.716	

(イ) 改修を要する施設一覧表

(第5表-2)

事業名	項目 施設名	施設名 又は 個所数	受益面積 (ha)	構造	規模	新設又は更新年月日	改修を必要とする理由	備考	
農村地域 防災減災事業	貯水池								
	井堰								
	自然取入口								
	揚水機								
	用水路	中央 幹線水路	235.4	開水路	現場打水路 400(B)×400(H) ~600(B)×500(H) L=945m	S44		老朽化	
					L型ﾌﾞｯｸﾞ水路 900(B)×800(H) ~1300(B)×800(H) L=717m				
		西幹線水路	225.7	開水路	現場打水路 800(B)×600(H) L=90m	S45		老朽化	
					L型ﾌﾞｯｸﾞ水路 700(B)×600(H) ~1050(B)×600(H) L=817m				
その他				管水路	ACP φ200~φ500 L=2,448m	S44	石綿管の更新	開拓専用水路 変更追加	
				管水路	ACP φ350~φ500 L=2,019m	S45	石綿管の更新		
計		461.1							

(3) 用水に関する被害状況
該当なし

(4) ため池決壊の場合の想定被害状況
該当なし

2. 排水状況

(1) 排水系統

受益地内の排水は、地区内の排水路を経て洲本川に流れ、最終的には瀬戸内海に排水されている。



(2) 排水施設
該当なし

(3) 排水に関する被害状況
該当なし

3. 河川状況

鮎屋川、初尾川及び黒部谷川に導かれた排水は洲本川を経て、最終的には瀬戸内海に流れ込む。



第4節 道路現況

該当なし

第5節 地域農業の概況

1. 産業別就業人口

(第7表-1)

市町村名	項目															
	総数 (人)	農業 (人)	林業 (人)	漁業 (人)	鉱業 (人)	建設業 (人)	製造業 (人)	電気ガス熱 供給水道業 (人)	運輸 通信業 (人)	卸売 小売業 飲食店 (人)	金融 保険業 (人)	不動 産業 (人)	サービス業 (人)	公務 (人)	その他 (人)	備考
洲本市	18,693	1,613	5	267	6	1,251	2,554	90	623	2,753	334	185	7,503	709	800	
南あわじ市	24,678	5,239	8	419	2	1,590	3,690	79	872	3,548	410	189	2,644	656	5,332	
計	43,371	6,852	13	686	8	2,841	6,244	169	1,495	6,301	744	374	10,147	1,365	6,132	
比率(%)	100	15.8	0.0	1.6	0.0	6.6	14.4	0.4	3.4	14.5	1.7	0.9	23.4	3.1	14.1	

出典：令和2年「国勢調査 洲本市・南あわじ市」による

2. 経営耕地広狭別農業経営体数

(第7表-2)

区分	経営耕地広狭別農業経営体数											1経営体当たり平均農用地面積 (ha)					備考	
	農業 経営 体数	0.3ha 未満	0.3ha ～ 0.5ha	0.5ha ～ 1.0ha	1.0ha ～ 1.5ha	1.5ha ～ 2.0ha	2.0ha ～ 3.0ha	3.0ha ～ 5.0ha	5.0ha ～ 10.0 ha	10.0 ha ～ 20.0 ha	20.0 ha 以上	田	畑	樹 園 地	小 計	草 地		計
洲本市	1,290	27	261	666	208	62	38	14	12	2	0	0.86	0.22	0.26	1.34	0.90	2.24	団地経営体23
南あわじ市	2,958	89	476	1,334	640	225	133	35	21	2	3	1.04	0.02	0.01	1.07	0.00	1.07	団地経営体42
計	4,248	116	737	2,000	848	287	171	49	33	4	3	1.90	0.24	0.27	2.41	0.90	3.31	
比率(%)	100	2.7	17.3	47.1	20.0	6.8	4.0	1.2	0.8	0.1	0.1	57.4	7.3	8.2	72.8	27.2	100.0	

出典：2020年「農林業センサス」による

3. 主要家畜頭数

(第7表-3)

項目 市町村名	主 要 家 畜										備 考
	乳 用 牛		肉 用 牛		豚		採 卵 鶏 ブロイラー				
	頭数 (頭)	経営体数 (経営体)	頭数 (頭)	経営体数 (経営体)	頭数 (頭)	経営体数 (経営体)	羽数 (羽)	経営体数 (経営体)	羽数 (羽)	経営体数 (経営体)	
洲本市	1,322	40	4,694	278							「×」は枢密保護上 統計数値を公表しないもの
南あわじ市	2,783	79	x	220					20,636	4	
計	4,105	119	4,694	498	-	-	-	-	20,636	4	
100経営体当たり 数量(頭)	97		110		-		-		486		
飼養経営体数割合 (%)	3		11		-		-		0.02		

出典：令和2年「農林業センサス」による

4. 主要作物作付状況

(第7表-4)

市町村名			洲本市		南あわじ市				備	考
総耕作面積 (ha)			1,745		3,710					
総本地面積 (ha)					3460					
作物名	区分		作付面積 (ha)	単位面積 当収量 (kg/10a)	作付面積 (ha)	単位面積 当収量 (kg/10a)	作付面積 (ha)	単位面積 当収量 (kg/10a)		
	田	表作	稲	933	501	1,497				
裏作		野菜	187	5,595	22					
小計		1,120		1,519						
畑	春夏作	野菜	23	7,250						
	秋冬作	野菜	22	6,400						
	小計		45							
樹園地	果樹		12	2,400						
	その他									
	小計		12							
計			1,177		1,519					
市町村別延べ作付率 (%)			67.4		40.9					

出典：令和2年度「農林業センサス」による

5. 農業の動向

洲本市

(第7表-5)

項目 区分	農業経営体			土地			主要作物			大家畜			地域指定等	備考
	種別	B	A	地目	B	A	作物名	B	A	家畜名	B	A		
変化の状況 (C年を100とする指数)	農業経営体	82	65	耕地	89	70	水稻	85	73	乳用牛	62	37	農業振興地域 平成10年 国の野菜指定地 昭和62年 たまねぎ、秋冬はくさい 冬レタス 過疎地域 平成2年	A:令和2年 (2020年) B:平成27年 (2015年) C:平成22年 (2010年) —記載なし
	個人経営体	81	64	田	88	68	たまねぎ	102	137	肉用牛	77	59		
	団体経営体数 (法人)数	122	189	畑	102	108	—	—	—	—	—	—		
	団体経営体数 (非法人)数	100	75	樹園地	69	63	—	—	—	—	—	—		
変化の理由	農業と他産業との収益格差により農業労働の農業外就業が増加して後継者がいなくなり、農業離れが進んでいる。			耕地が宅地・道路等に転用されて減となっている。			耕地、田、畑の面積が増えたことにより、水稻、大豆が増となった。 ※たまねぎについては、統計数値に作付面積がなくなったため、A欄は欠落している。			市場の動向等により、乳用、肉用とも減少していつている。				

出典:「農林業センサス」による

項目 区分	農業経営体			土地			主要作物			大家畜			地域指定等	備考
	種別	B	A	地目	B	A	作物名	B	A	家畜名	B	A		
変化の状況 (C年を100とする指数)	農業経営体	92	79	耕地	99	94	水稻	90	83	乳用牛	65	43	農業振興地域 昭和46年 国の野菜指定地 昭和41年 たまねぎ、春冬キャベツ 秋冬はくさい、春冬レタス 県の野菜指定産地 昭和43年 たまねぎ、春冬キャベツ 秋冬はくさい、春冬レタ 過疎地域 令和3年	A:令和2年 (2020年) B:平成27年 (2015年) C:平成22年 (2010年) —記載なし
	個人経営体	92	78	田	100	96	たまねぎ	42	40	肉用牛	75	59		
	団体経営体数 (法人)数	153	253	畑	94	59	—	—	—	—	—	—		
	団体経営体数 (非法人)数	150	200	樹園地	77	38	—	—	—	—	—	—		
変化の理由	小規模農家の農業離れ及び他産業への流出により、農家数が減少している。一方、規模拡大等を踏まえた専業思考により、専業農家が増加、または、退職等による専業農家が増加している。			樹園地の減少は、農業従事者の高齢化及び後継者不足に伴い、樹園地管理が困難になるケースが多いためと考えられる。農家数が減少する一方で畑地面積が増加しているのは、野菜指定産地化による、たまねぎ、レタス等の畑地栽培が盛んになった影響を受けたものと思われる。			転作等により水稻が減少している。 ※たまねぎについては、統計数値に作付面積がなくなったため、A欄は欠落している。			家畜を有する農家が近年著しく減少している背景には、農業従事者の高齢化と後継者不足が原因であると思われる。				

出典:「農林業センサス」による

第6節 地域環境の概況

本地区は、洲本市及び南あわじ市を流れる洲本川支流の鮎屋川、初尾川及び黒部谷川沿岸部に位置する田園地帯であり、また、気候は、冬季温暖で年間を通じて降水量の少ない瀬戸内海式気候に属し、降水量の少なさからしばしば水不足を招き、古来からため池の築造、近代以降はダム建設が進められてきた環境にある。

付近の土地利用と景観の特徴は集落、農地、里山、河川であり豊かな田園景観が保全されている。

また、付近の山林ではモチツツジーアカマツ群集、コナラ群集、ウバメカシークロマツ群集等多様な植生状態を形成し、それらを生息場所としているニホンジカ、ニホンイノシシ、ニホンザル、タヌキ等の大型ほ乳類を含め、多様な生物が生息している。

第4章 一般計画

第1節 事業計画の要旨

1. 要 旨

本事業は、平成17年7月に施行された「石綿障害予防規則」（平成17年厚生労働省令第21号）に則り石綿に起因する影響を未然に防止するため、既設の石綿管を撤去して他の管に更新するとともに、これらと一体となって機能を発揮している他の施設についても必要な区間を更新・補修するものであって、これにより農業経営の安定および農業の維持を図るものである。

(1) 中央幹線水路

項目	事業を必要とする理由	改修補強工法	備考
開水路	老朽化による目地部の劣化、側壁及び底板部の摩耗が進行しており、さらに、経過年数が標準耐用年数(40年)を大きく越えた状態となっており、早急な対策(補修)が必要である。	現場打水路 400(B)×400(H)～600(B)×500(H) L=942m L型ブロック水路 900(B)×800(H)～1300(B)×800(H) L=720m	
管水路	経済性から管水路の一部に石綿管が使用されており、万が一、管の破裂等が生じた場合は、健康面への悪影響は避けられず、早急な対策(管の更新)が必要である。なお、経過年数が標準耐用年数(30年)を大きく越えた状態となっており、破裂の危険性は年々高くなっている。	VUφ300～φ500 L=3,115m	開拓専用水路 変更追加
他事業関連			

(2) 西幹線水路

項目	事業を必要とする理由	改修補強工法	備考
開水路	老朽化による目地部の劣化、側壁及び底板部の摩耗が進行しており、さらに、経過年数が標準耐用年数(40年)を大きく越えた状態となっており、早急な対策(補修)が必要である。	現場打水路 800(B)×600(H) L=99m L型ブロック水路 700(B)×600(H)～1050(B)×600(H) L=787m	
管水路	経済性から管水路の一部に石綿管が使用されており、万が一、管の破裂等が生じた場合は、健康面への悪影響は避けられず、早急な対策(管の更新)が必要である。なお、経過年数が標準耐用年数(30年)を大きく越えた状態となっており、破裂の危険性は年々高くなっている。	VUφ350～φ500 L=2,543m	
他事業関連			

2. 事業別面積

(第8表)

事業名	農村地域防災減災事業						備考
土地利用区分 事業目的	水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)		計 (ha)	
用水路更新	428.3	6.3		26.5		461.1	

第2節 営農計画及び土地利用計画
該当なし

第3節 用水計画

1. 計画基準年 昭和33年（鮎屋川ダム）

2. 計画かんがい方式

- (1) 水 田 湛水かんがい
- (2) 畑（輪換畑・普通畑） うね間かんがい

3. 計画用水系統

本地区の用水は鮎屋川ダムを水源として、各幹線用水路を経て各受益地へ供給されている。



4. 計画用水量

(1) かんがい用水

(第10表-1-1)

項目	系統名	種別	面積 (ha)			水田かんがい		畑地かんがい			その他		消費水量 (m ³ /s)	損失率 (%)	粗用水量		備考	
			事業名			普通期	代掻期	面積 (ha)	1日当り計画 平均かん 水水深 (mm/日)	平均 間断 日数 (日)	面積 (ha)	計画 (平均) 単位 用水量 (mm/日)			面積 (ha)	平均		最大
			防 農 村 減 災 地 域 事 業		計	計画平均単位 用水量 (mm/日)	計画代 かき単 位用水 量 (mm)											
中央幹線	農業用水		235.4		235.4											0.368		
西幹線	農業用水		225.7		225.7											0.348		

(2) 営農飲雑用水 該当なし

5. 水源計画

(1) 水利用計画

該当なし

(2) 用水対策

- (ア) 貯水池 該当なし
- (イ) 井堰及び自然取入口 該当なし
- (ウ) 揚水機 該当なし

(エ)用水路

(第10表-6)

項目 名称	かんがい面積 (ha)			最大通水量 (m ³ /s)	延長 (m)	構造	備考
	事業名						
	農村地域 防災減災事業		計				
中央幹線	235.4		235.4	0.368	4777.0	現場打水路：400(B)×400(H)～600(B)×500(H) L=942m L型ブロック水路：900(B)×800(H)～1,300(B)×800(H) L=720m VUφ300～φ500 DCIPφ350～φ400 L=3,115m	開拓専用水路 変更追加
西幹線	225.7		225.7	0.348	3429.0	現場打水路：800(B)×600(H) L=99m L型ブロック水路：700(B)×600(H)～1,050(B)×600(H) L=787m VUφ350～φ500 VMφ500 DCIPφ500 L=2,543m	

(オ)その他の水源施設

該当なし

(3)水温水質

該当なし

第4節 排水計画
現況と変化がないため、該当なし

第5節 道路計画
該当なし

第6節 農用地造成計画
該当なし

第7節 洪水調節計画
該当なし

第8節 干拓計画
該当なし

第9節 農用地整備計画
該当なし

第10節 老朽ため池改修計画
該当なし

第5章 主要工事計画

第1節 用水施設

1. 貯水池

該当なし

2. 頭首工

該当なし

3. 揚水機

該当なし

4. 用水路

(第17-4表)

項目 水路名	かんがい面積 (ha) 事業名		通水量 (m ³ /s)	延長 (km)			構造	勾配	主要構造物	備考
	農村地域防災 減災事業	計		開渠	トンネル その他	計				
鮎屋川地区										
中央幹線水路	235.4	235.4	0.173~0.368	1,662.0	3,115.0	4,777.0	現場打水路 400(B)×400(H) ~ 600(B)×500(H) L=942m L型ﾌﾞﾛｯｸ水路 900(B)×800(H) ~ 1300(B)×800(H) L=720m VU φ 300~φ 500 DCIP φ 350~φ 400 L=3,115m			モルタル充填部245mを除く 開拓専用水路変更追加
西幹線水路	225.7	225.7	0.063~0.348	886.0	2,543.0	3,429.0	現場打水路 800(B)×600(H) L=99m L型ﾌﾞﾛｯｸ水路 700(B)×600(H) ~ 1050(B)×600(H) L=787m VU φ 350~φ 500 VM φ 500 DCIP φ 500 L=2,543m			
計	461.1	461.1		2,548.0	5,658.0	8,206.0				

5. その他かんがい施設

該当なし

第2節 排水施設

該当なし

第3節 道路及び索道

該当なし

第4節 農用地造成

該当なし

第5節 洪水調節施設

該当なし

第6節 干拓施設

該当なし

第7節 農用地整備施設

該当なし

第8節 老朽ため池改修施設

該当なし

第6章 附帯工事計画

該当なし

第7章 工事の着手及び完了の予定時期

1. 工事の着手及び完了の予定

着手 平成29年9月

完了 令和13年3月

2. 工程表

工 種	年 度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度～令和11年度	令和12年度
鮎屋川地区	実施設計	—				
	用水路工 中央幹線水路		—			
	用水路工 西幹線水路		—			

第8章 環境との調和への配慮

1. 基本方針

本事業の対象範囲は、マスタープランにおける環境配慮区域に属し、環境への影響緩和などについて配慮した工事を実施することによって、自然との調和を図っていく。

2. 当該地域の生態系の現況

事業範囲付近の山林ではモチツツジーアカマツ群集、コナラ群集、ウバメカシークロマツ群集等多様な植生状態を形成し、それらを生息場所としているニホンジカ、ニホンイノシシ、ニホンザル、タヌキ等の大型ほ乳類を含め、多様な生物が生息している。

3. 当該地区における環境配慮の方法

本事業において工事が行われる施設の本体は、道路下に設置される管渠と現況開水路の補修(モルタル系被覆)であり、事業完了後は現状と同様の状態となるため、景観の変化等もなく特段の配慮は必要ないと考えられる。

ただし、事業の内容から、環境との調和への配慮として、道路部以外に埋設されている石綿管撤去時に環境への配慮が必要となる。

環境との調和への配慮として、以下の事項に留意する。

- ・石綿管の除去に当たっては飛散等が発生しないよう十分注意し、場合によっては飛散防止用の防塵シートを設置する。
- ・施工に当たっては、低振動・低騒音等の作業機械を使用する。
- ・山林部の工事においては木の伐採は最小限にとどめ、埋戻し土は可能な限り掘削土を流用し、残土の地区外持ち出しを最小限にする。
- ・水田部においては、工事完了後の作物の作付けに留意して、表土及び耕土については現状の掘削土を埋戻す。
- ・道路法面部の復旧工事として植生を伴う工事が発生した場合は、仮置きした現況表土を可能な限り使用する。

第9章 換地計画の概要

該当なし

第10章 事業費の総額及び内訳

総事業費 1,365,000,000円

(第26表)

区分	事業費(千円)
工事費	940,000
用水路工	940,000
測量試験費	103,000
用地買収及び補償費	257,000
事業費計	1,300,000
事務費	65,000
総事業費	1,365,000

事務費 = 事業費 * 5.0% (県営事業)

第11章 効用

(単位：千円)

項目 種別	年総効果 (便益)額	年増加農業所得額		現況 年総農業所得額	備考
			うち機能向上分		
食料の安定供給の確保に関する効果	446,611	470,207			
作物生産効果	469,167	469,314			
営農経費節減効果	△ 21,804				
維持管理費節減効果	△ 752	893			
その他効果	58,540				
国産農産物安定供給効果	58,540				総費用総便益比
計	505,151	470,207		2,419,778	4.31

(備考)

総便益額(現在価値化)・・・15,895,824千円

第12章 関連する事業

該当なし

第13章 現況・計画図面

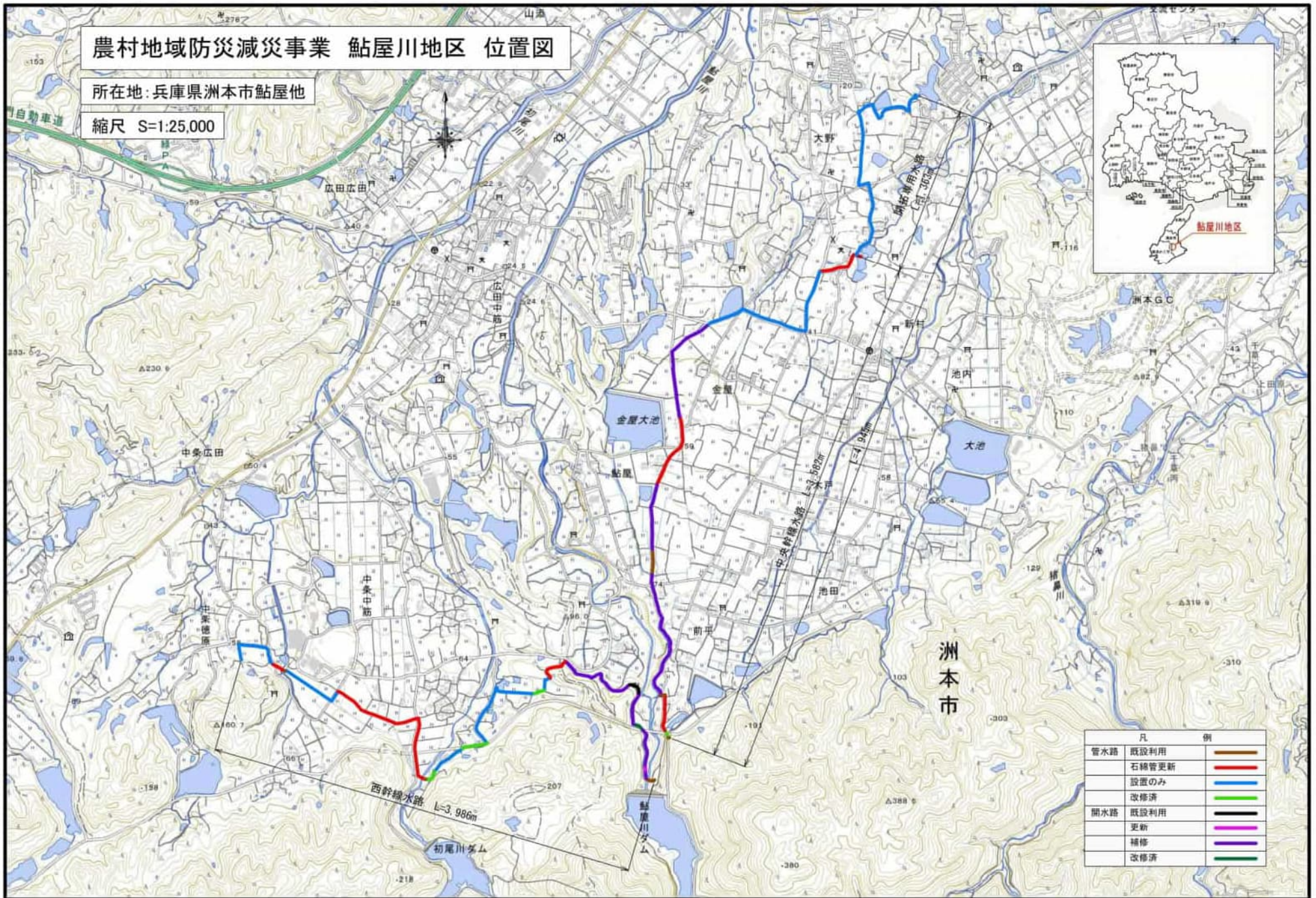
別添のとおり

位 置 図

農村地域防災減災事業 鮎屋川地区 位置図

所在地: 兵庫県洲本市鮎屋他

縮尺 S=1:25,000



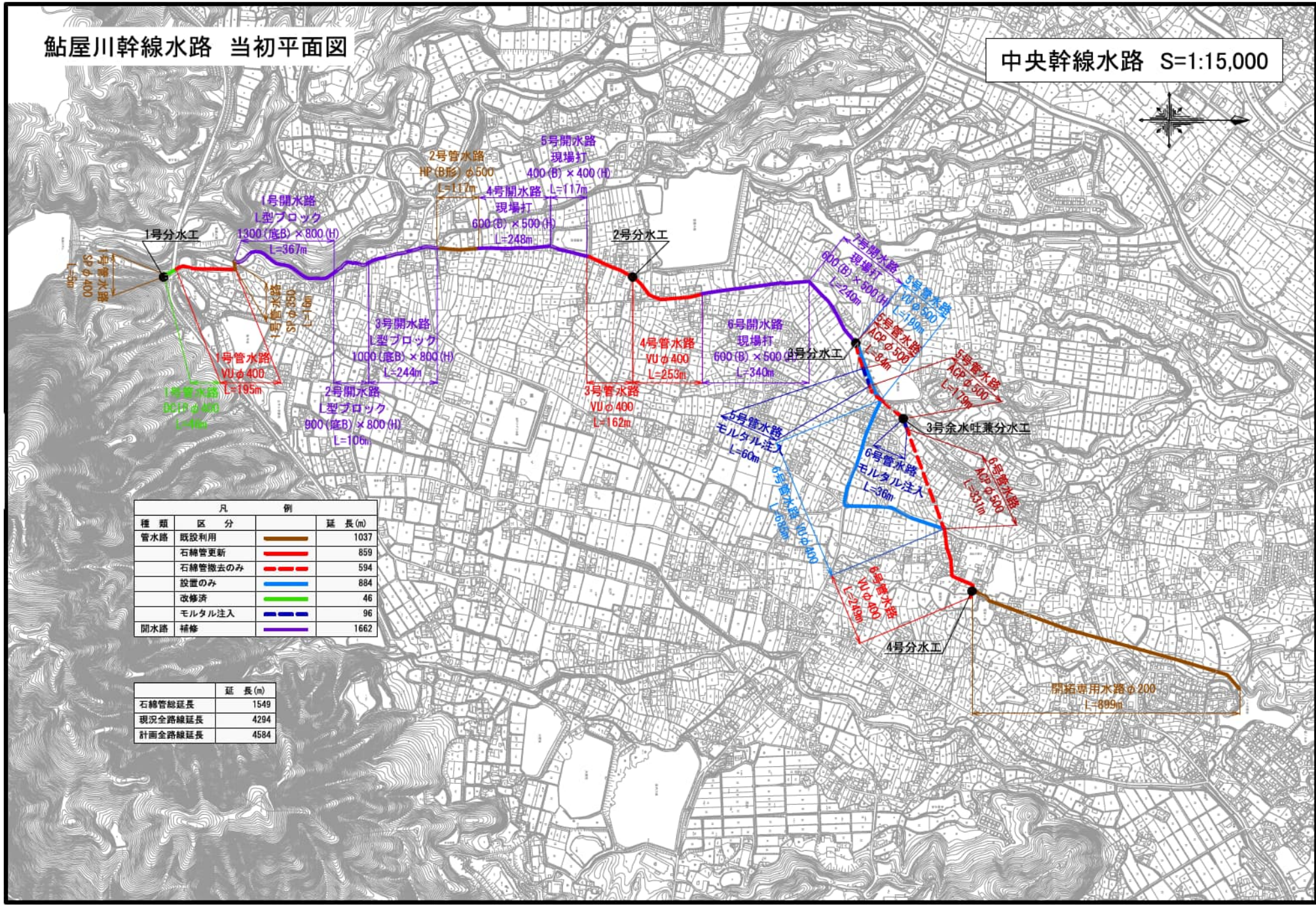
凡 例	
管水路	既設利用
	石綿管更新
	設置のみ
	改修済
開水路	既設利用
	更新
	補修
	改修済

計画概要図

中央幹線水路

鮎屋川幹線水路 当初平面図

中央幹線水路 S=1:15,000

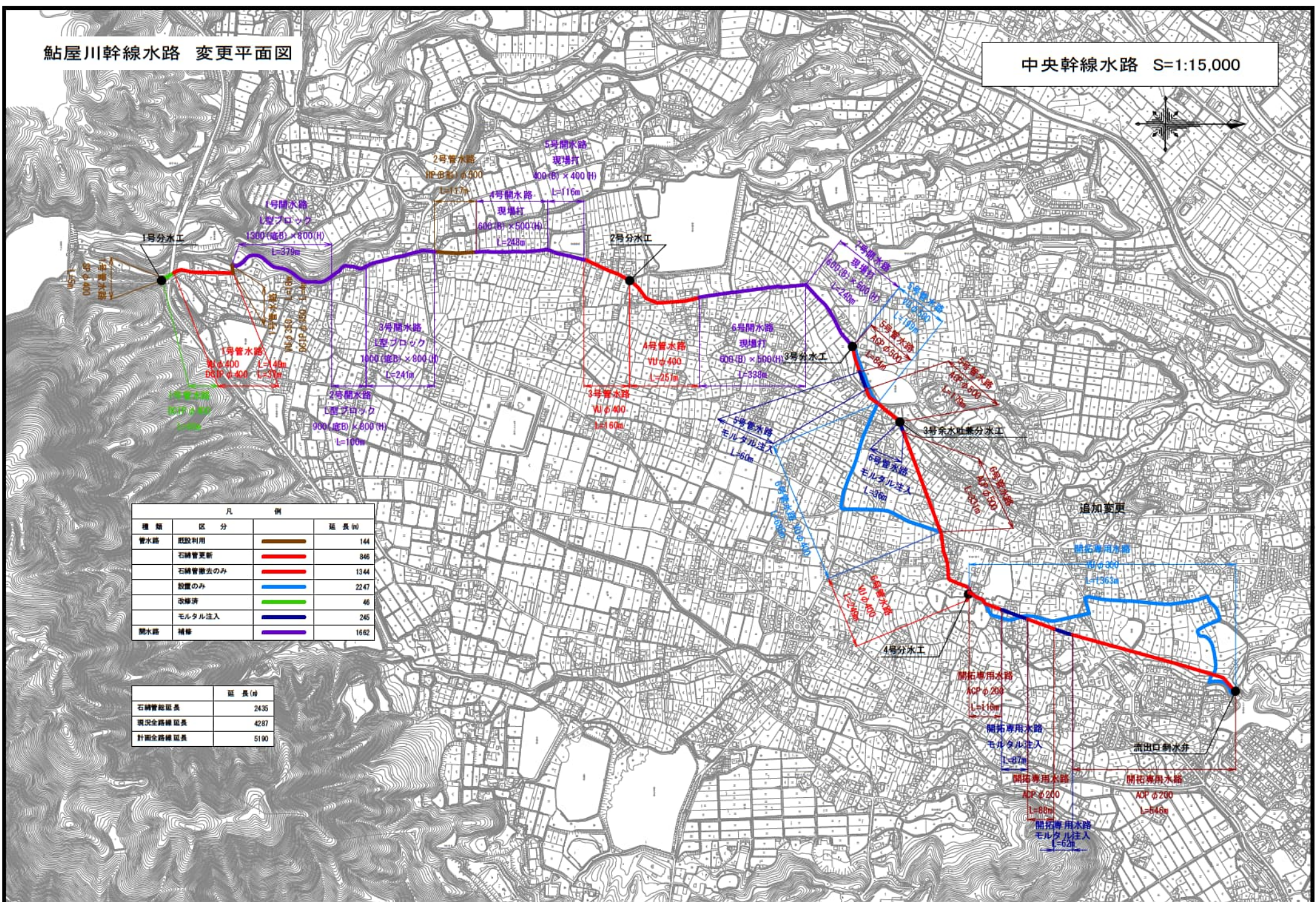


凡 例		延長 (m)
管水路	既設利用	1037
	石綿管更新	859
	石綿管撤去のみ	594
	設置のみ	884
	改修済	46
	モルタル注入	96
開水路	補修	1662

	延長 (m)
石綿管総延長	1549
現況全路線延長	4294
計画全路線延長	4584

鮎屋川幹線水路 変更平面図

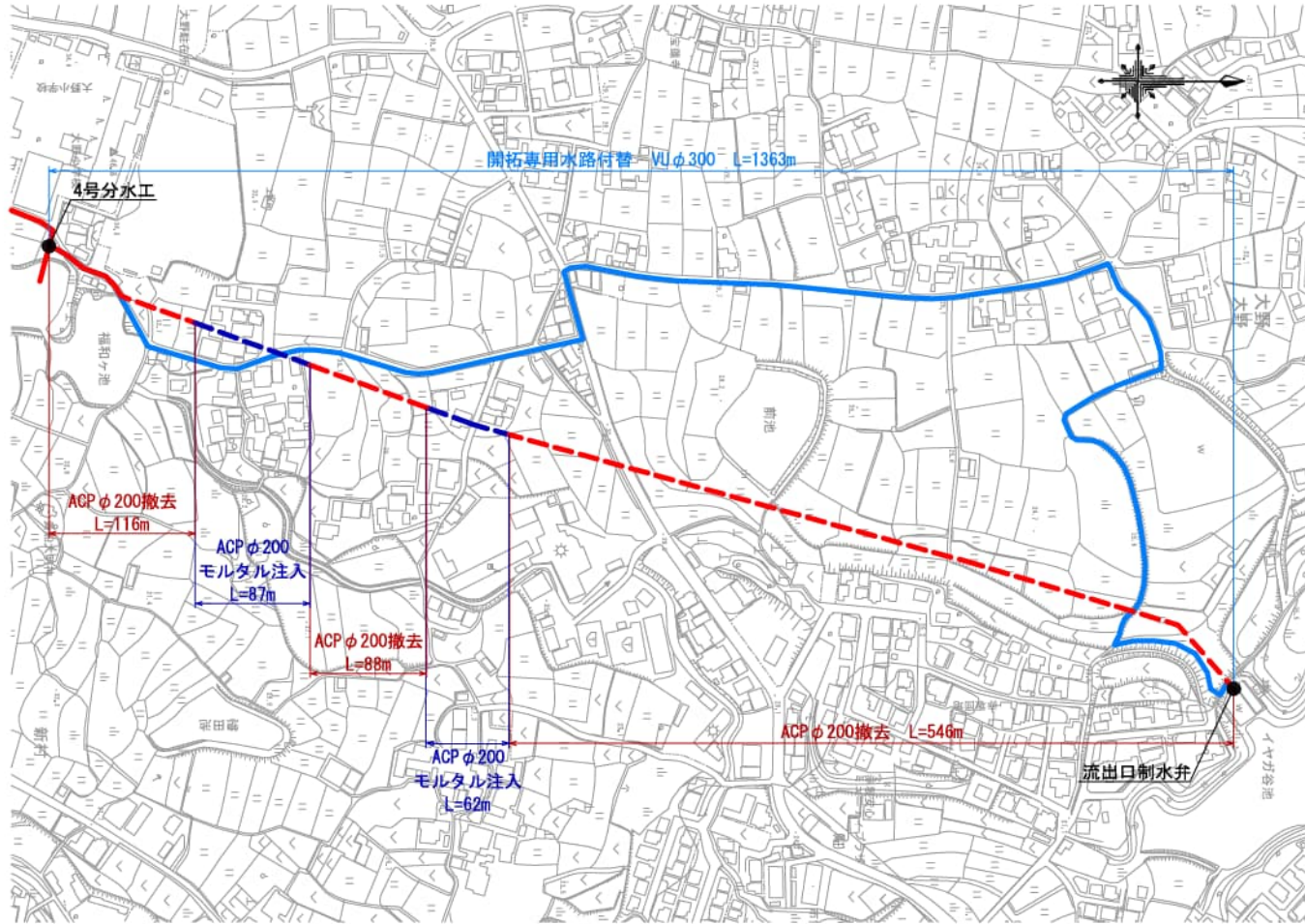
中央幹線水路 S=1:15,000



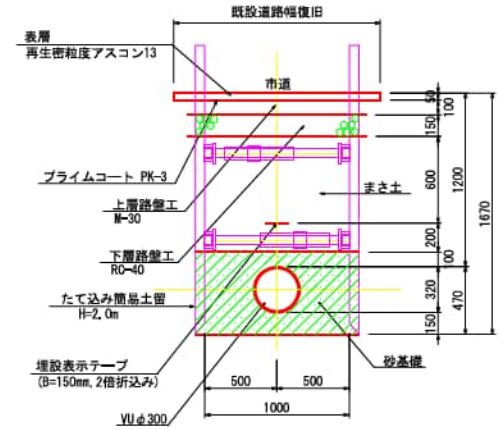
	延 長(m)
石鋪管総延長	2435
現況全路線延長	4287
計画全路線延長	5190

【変更追加】鮎屋川中央幹線水路 開拓専用水路

計画平面図 S=1:5,000



標準断面図 S=1:50



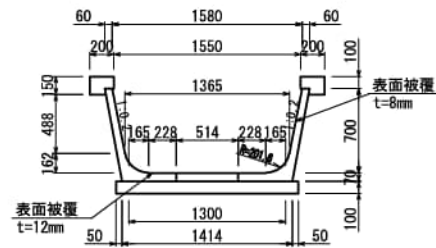
開水路標準断面

S=1 : 60

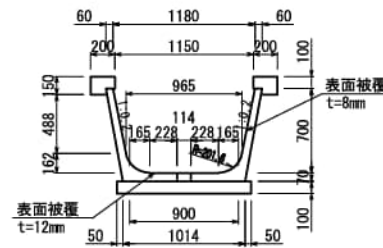
当初計画

中央幹線水路

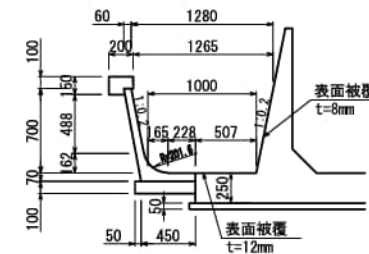
1号開水路



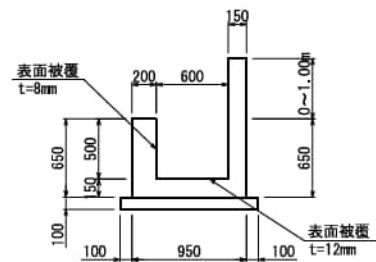
2号開水路



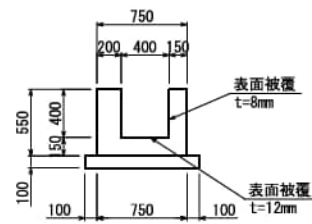
3号開水路



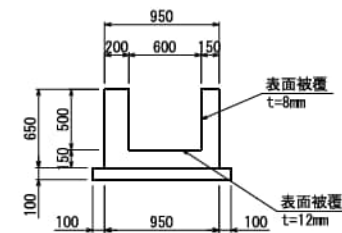
4. 6号開水路



5号開水路



7号開水路



中央幹線水路

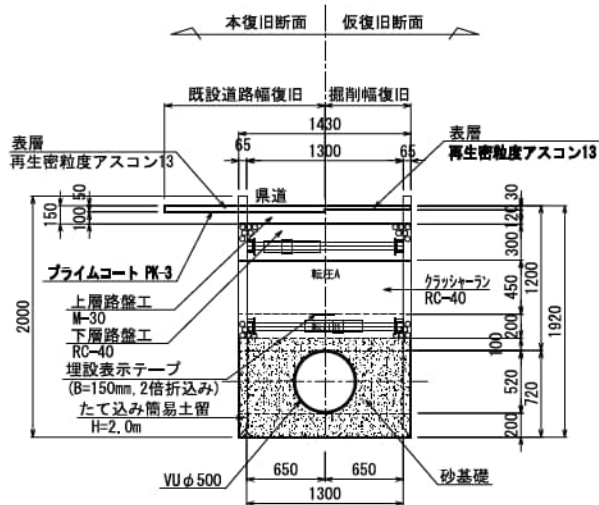
管水路埋設標準断面

S=1 : 60

当初計画

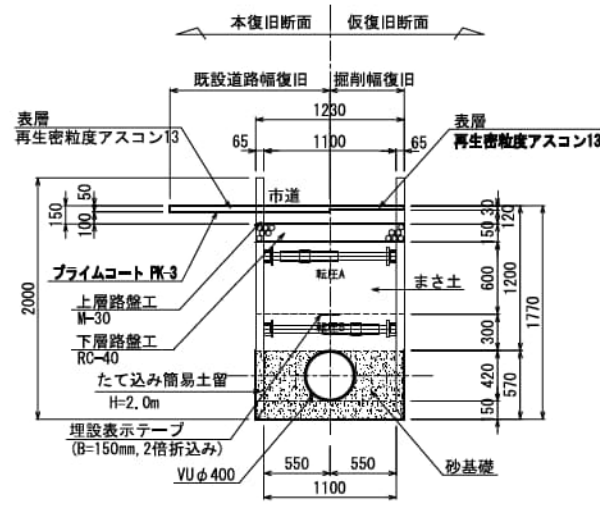
県道下

VUφ500 埋設
土被り1.2m



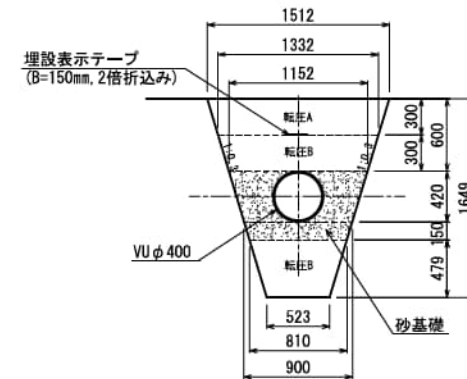
市道下

VUφ400 埋設
土被り1.2m



山林・原野

VUφ400 埋設
土被り0.6m



転圧A : ハンドガイド式振動ローラ
転圧B : タンパ

中央幹線水路

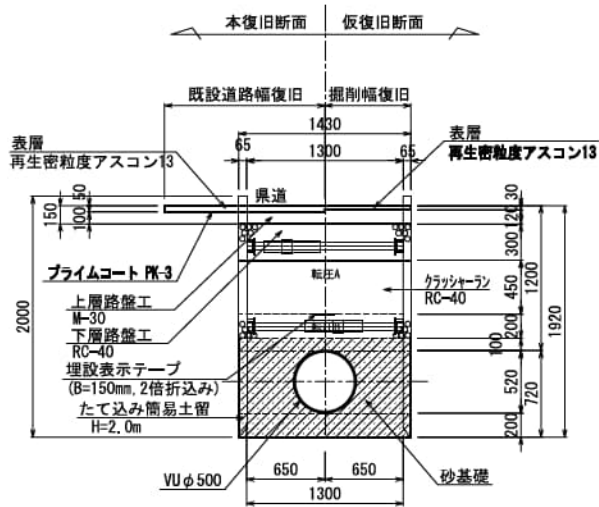
管水路埋設標準断面

S=1 : 60

変更計画

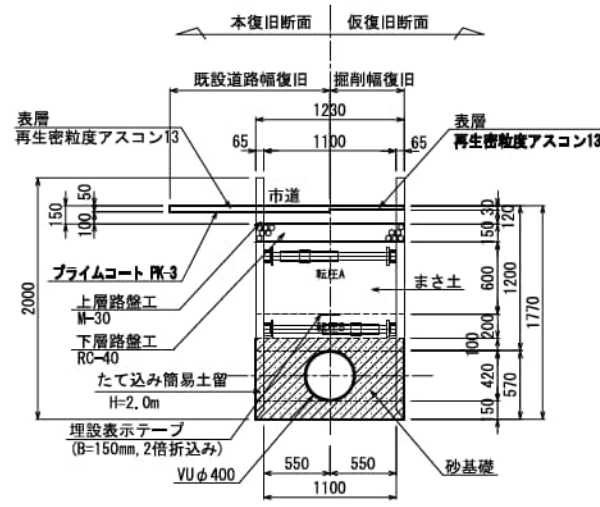
県道下

VUφ500 埋設
土被り1.2m



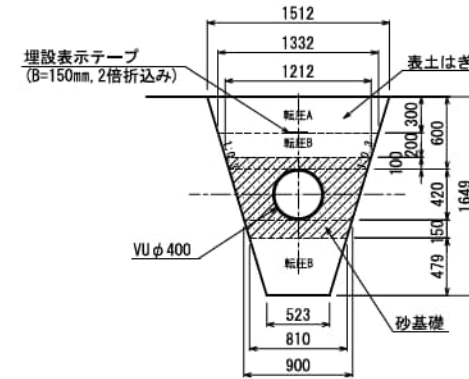
市道下

VUφ400 埋設
土被り1.2m



山林・原野

VUφ400 埋設
土被り0.6m



転圧A : ハンドガイド式振動ローラ
転圧B : タンパ

中央幹線水路

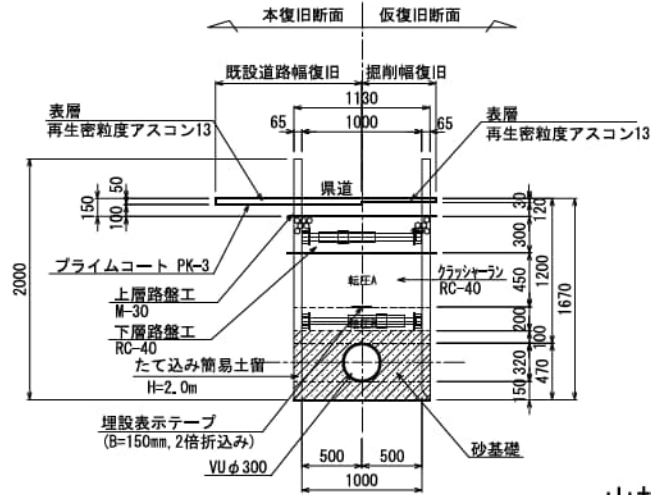
管水路埋設標準断面

変更計画

S=1 : 60

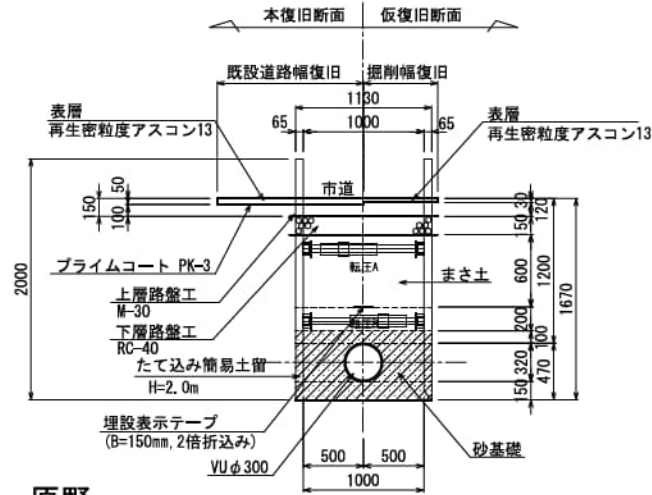
県道下

VUφ300埋設
土被り1.2m



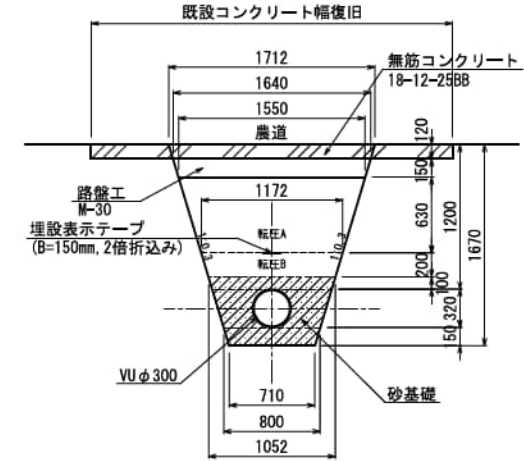
市道下

VUφ300埋設
土被り1.2m



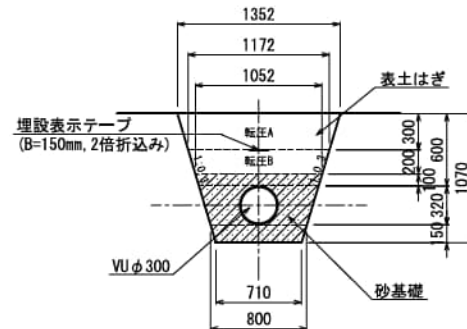
農道下

VUφ300埋設
土被り1.2m, Co舗装



山林・原野

VUφ300埋設
土被り0.6m



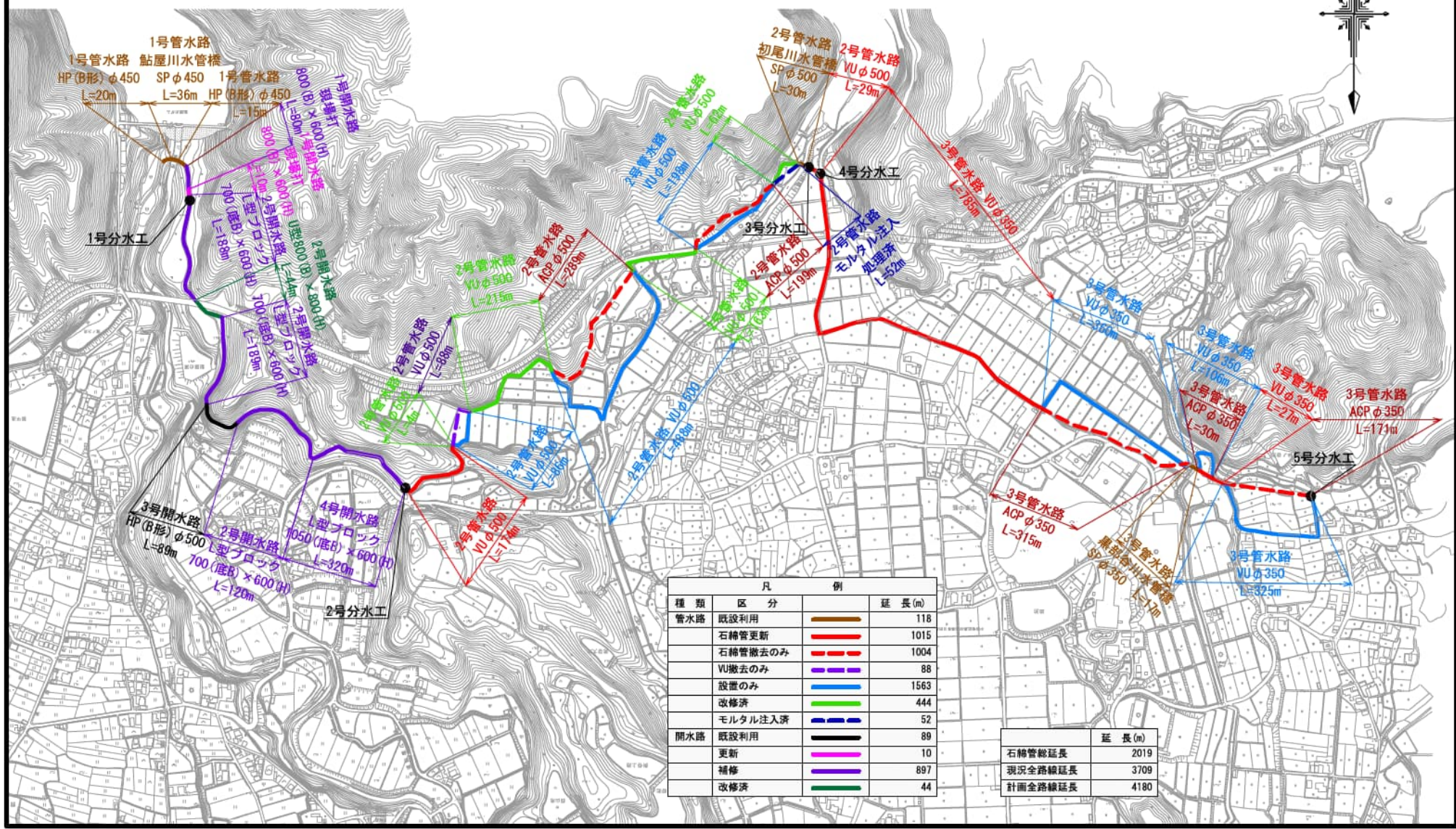
転圧A : ハンドガイド式振動ローラ
転圧B : タンパ

中央幹線水路

西 幹 線 水 路

鮎屋川幹線水路 当初平面図

西幹線水路 S=1:10,000

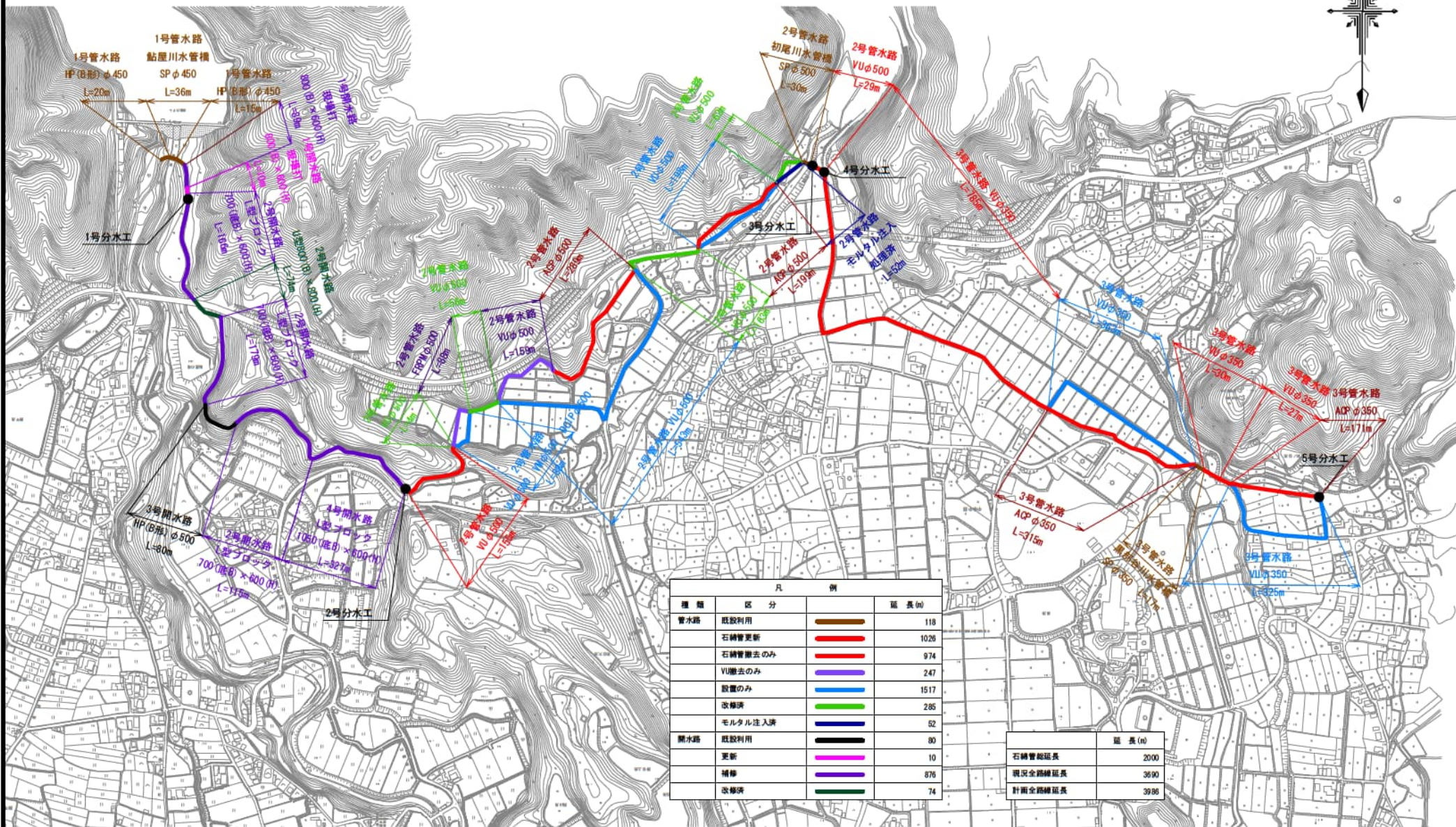


凡 例			延長(m)
管水路	既設利用		118
	石棉管更新		1015
	石棉管撤去のみ		1004
	VU撤去のみ		88
	設置のみ		1563
	改修済		444
	モルタル注入済		52
開水路	既設利用		89
	更新		10
	補修		897
	改修済		44

	延長(m)
石棉管総延長	2019
現況全路線延長	3709
計画全路線延長	4180

鮎屋川幹線水路 変更平面図

西幹線水路 S=1:10,000



凡 例			
種 類	区 分		延 長(m)
管水路	既設利用		118
	石鋪管更新		1028
	石鋪管撤去のみ		974
	VU撤去のみ		247
	設置のみ		1517
	改修済		285
開水路	モルタル注入済		52
	既設利用		80
	更新		10
	補修		878
改修済		74	

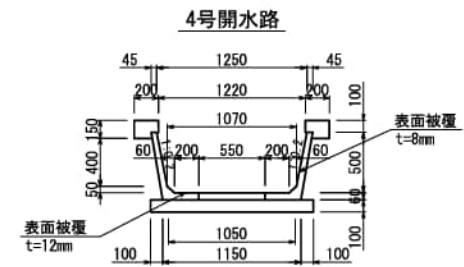
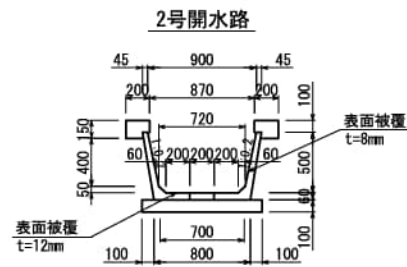
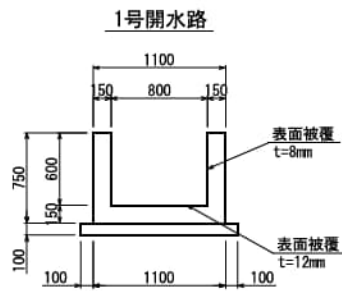
	延 長(m)
石鋪管総延長	2000
親尻全路線延長	3690
計画全路線延長	3988

開水路標準断面

S=1 : 60

当初計画

西幹線水路



西幹線水路

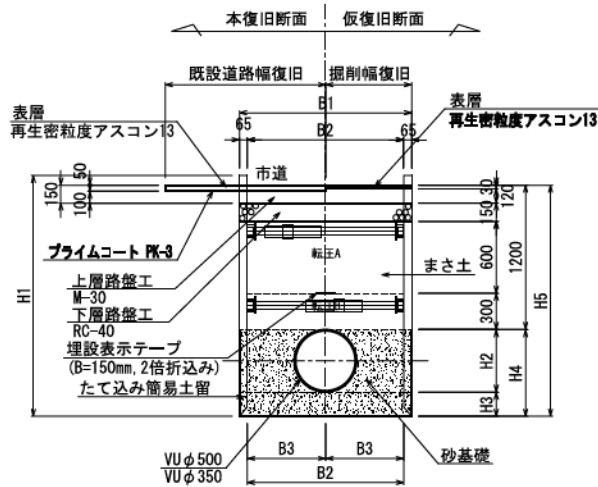
管水路埋設標準断面

S=1 : 60

当初計画

市道下

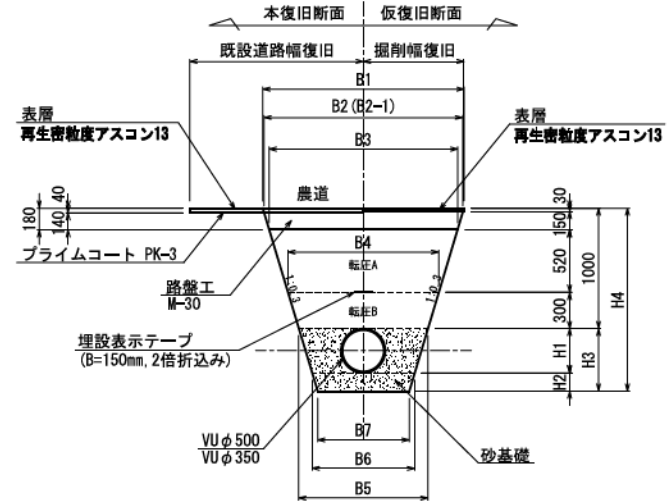
VUφ350 埋設
土被り1.2m



管種・管径	VUφ500	VUφ350
B1 (mm)	1430	1130
B2 (mm)	1300	1000
B3 (mm)	650	500
H1 (mm)	2000	2000
H2 (mm)	520	370
H3 (mm)	200	150
H4 (mm)	720	520
H5 (mm)	1920	1720
基礎材料	スクリーニングス	スクリーニングス

農道下

VUφ500, φ350 埋設
土被り1.2m



管種・管径	VUφ500	VUφ350
B1 (mm)	1912	1672
B2 (mm)	1888	1648
B2-1 (mm)	1894	1654
B3 (mm)	1804	1564
B4 (mm)	1492	1252
B5 (mm)	1312	1072
B6 (mm)	1000	850
B7 (mm)	880	760
H1 (mm)	520	370
H2 (mm)	200	150
H3 (mm)	720	520
H4 (mm)	1720	1520
基礎材料	スクリーニングス	スクリーニングス

転圧A : ハンドガイド式振動ローラ
転圧B : タンパ

西幹線水路

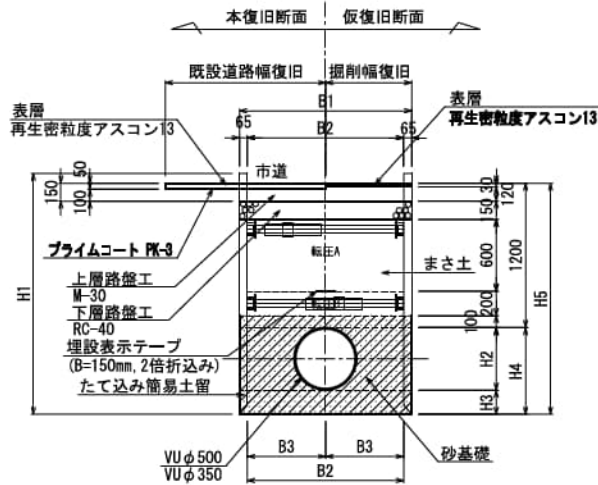
管水路埋設標準断面

S=1 : 60

変更計画

市道下

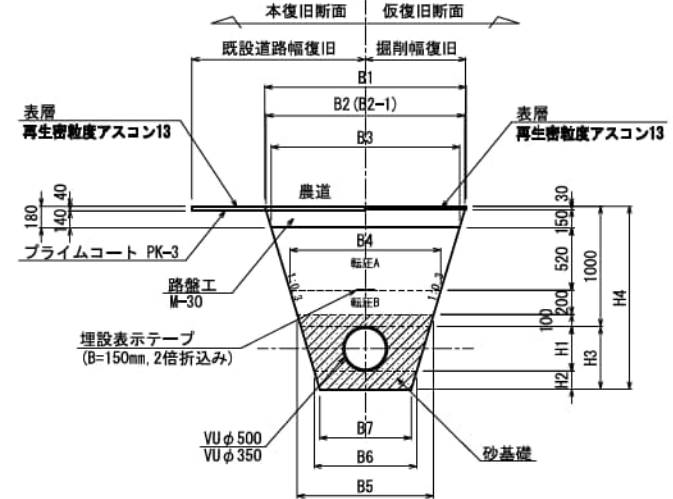
VUφ350 埋設
土被り1.2m



管種・管径	VUφ500	VUφ350
B1 (mm)	1430	1130
B2 (mm)	1300	1000
B3 (mm)	650	500
H1 (mm)	2000	2000
H2 (mm)	520	370
H3 (mm)	200	150
H4 (mm)	720	520
H5 (mm)	1920	1720
基礎材料	スクリーニングス	スクリーニングス

農道下

VUφ500, φ350 埋設
土被り1.2m



管種・管径	VUφ500	VUφ350
B1 (mm)	1912	1672
B2 (mm)	1888	1648
B2-1 (mm)	1894	1654
B3 (mm)	1804	1564
B4 (mm)	1492	1252
B5 (mm)	1372	1132
B6 (mm)	1000	850
B7 (mm)	880	760
H1 (mm)	520	370
H2 (mm)	200	150
H3 (mm)	720	520
H4 (mm)	1720	1520
基礎材料	スクリーニングス	スクリーニングス

転圧A : ハンドガイド式振動ローラ
転圧B : タンパ

西幹線水路

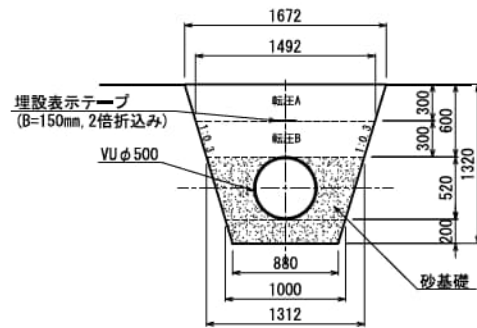
管水路埋設標準断面

S=1 : 60

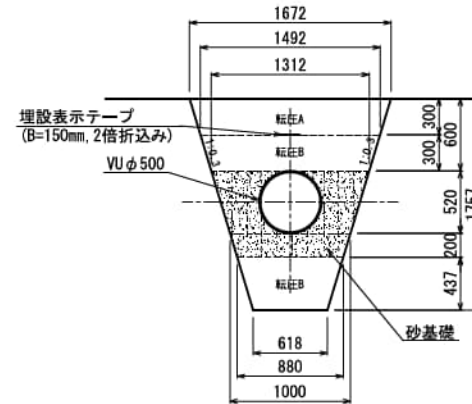
当初計画

里道下

VUφ500 埋設
土被り0.6m



VUφ500 埋設
土被り0.6m



転圧A : ハンドガイド式振動ローラ
転圧B : タンパ

西幹線水路

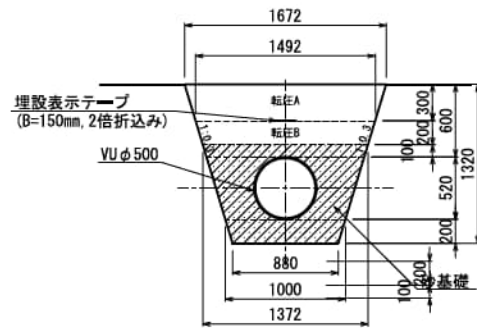
管水路埋設標準断面

S=1 : 60

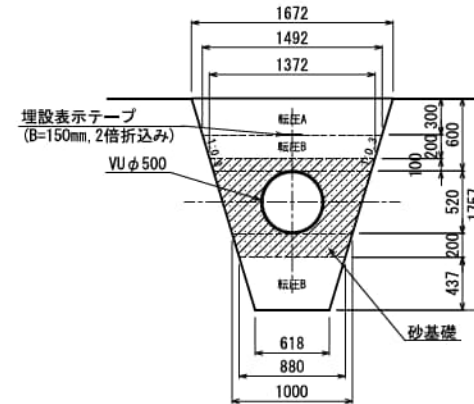
変更計画

里道下

VUφ500 埋設
土被り0.6m



VUφ500 埋設
土被り0.6m



転圧A : ハンドガイド式振動ローラ
転圧B : タンパ

西幹線水路

管水路埋設標準断面

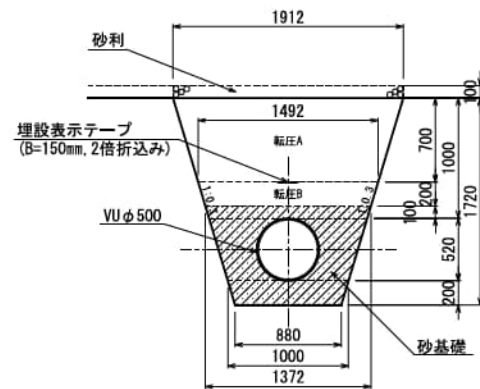
S=1 : 60

変更計画

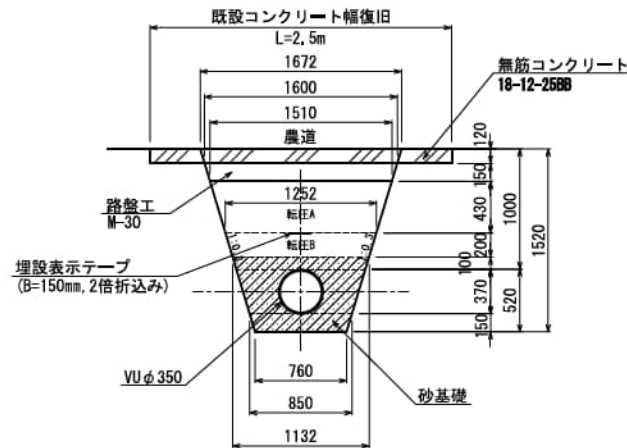
農道下

水田下

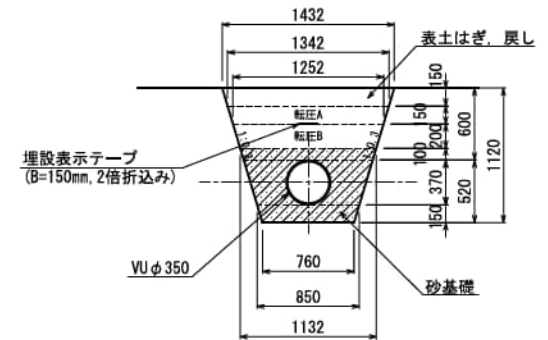
VUφ500 埋設
土被り1.0m, 敷砂利



VUφ350 埋設
土被り1.0m, Co舗装



VUφ350埋設
土被り0.6m



転圧A : ハンドガイド式振動ローラ
転圧B : タンパ

西幹線水路

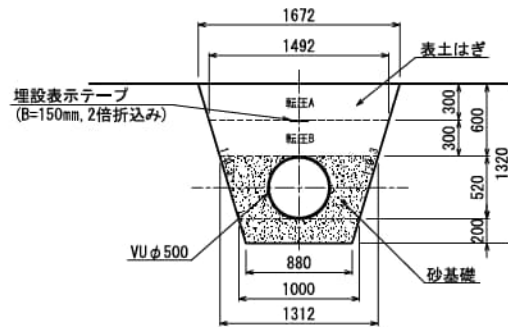
管水路埋設標準断面

S=1 : 60

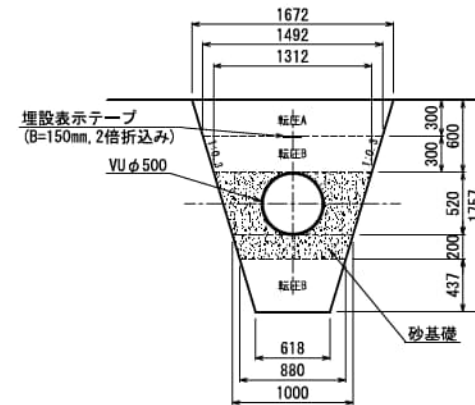
当初計画

山林・原野

VUφ500 埋設
土被り0.6m



VUφ500 埋設
土被り0.6m



転圧A : ハンドガイド式振動ローラ
転圧B : タンバ

西幹線水路

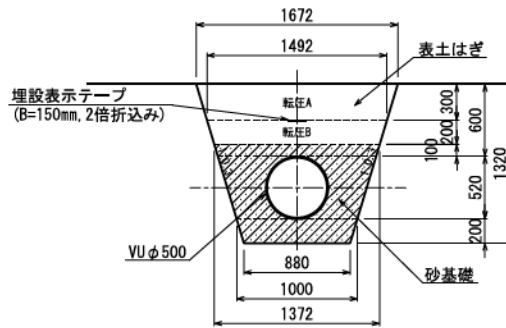
管水路埋設標準断面

S=1 : 60

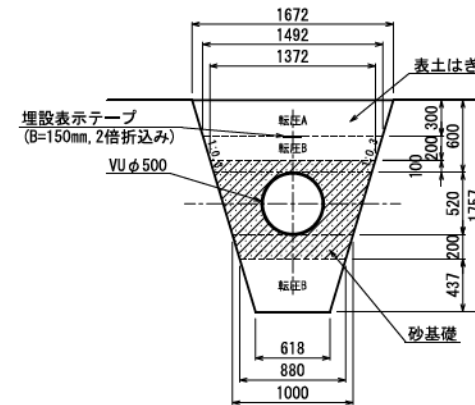
変更計画

山林・原野

VUφ500 埋設
土被り0.6m



VUφ500 埋設
土被り0.6m



転圧A : ハンドガイド式振動ローラ
転圧B : タンバ

西幹線水路

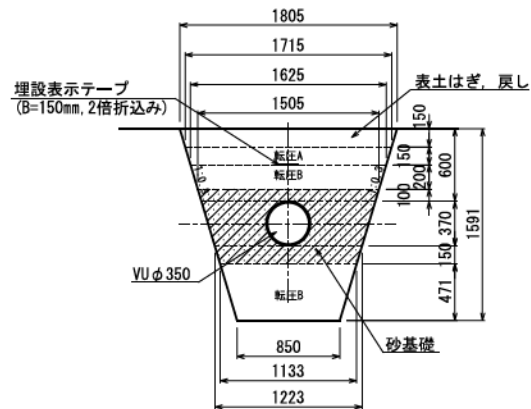
管水路埋設標準断面

S=1 : 60

変更計画

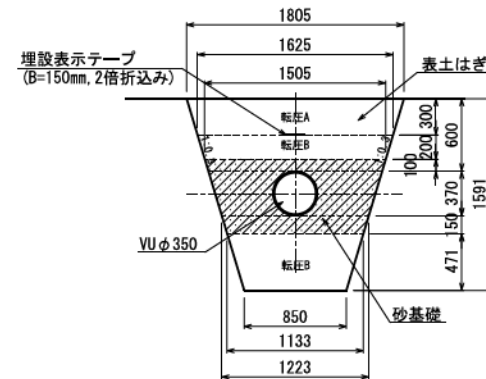
水田下

VUφ350 埋設
土被り0.6m



山林・原野

VUφ350 埋設
土被り0.6m



転圧A : ハンドガイド式振動ローラ
転圧B : タンパ

西幹線水路